

第106号

2月

あいしま号

〒246-0022

横浜市瀬谷区三ツ境

73-7

株式会社アイシマ

TEL045-360-6021

グループホームならではの 千葉ホーム長からの お話です。

寒い日が続きますが皆様
いかがお過ごしでしょうか。
グループホームならではの
管理者の千葉哲弘と申しま
す。

グループホームなでしこ
では近隣の下和泉小学校と
の交流を行っており、3年生
を対象に認知症に関する授
業を行っております。

気付いた事は最近の小学
3年生は認知症のことをよ
く知っているという事です。
もの忘れと認知症の違いに
ついてクイズを出しても殆
どの子が正解を答えること
ができます。

ニュースや健康バラエテ
ィなどで認知症を取り扱う
事が多い事や、親類など身近
に認知症の方がいることな
どが理由だということです。

授業ではグループホーム
のこともお話しています。
お散歩で出会ったり、お祭り
などの地域行事と一緒にな
ったりと意外と認識されて
いることがわかりました。

認知症の方への対応の仕
方をお話ししたあと、実際に
ホームでの交流を行ってい
ます。

授業でクラスごとに訪問
していただき、歌やダンスを
披露してもらったり、交流タ
イムでは一緒にゲームや折
り紙などを行なっています。

また、放課後には小学生に
ホームを開放しており、自由
に遊びに来て貰っています。

2〜3人ずつ折り紙やゲー
ムを持ってふらっと遊びに
きたり、ハロウィンやクリス
マスの飾りを一緒に作った
りとホームのお年寄りと楽
しく過ごしていただしてい
ます。担任の先生曰く、子供
達は「なでしこはすごく楽し
いよー」と言っているとのこ

と。嬉しい言葉です。
さて肝心なホームのお年
寄りの反応はということ…。
子供達の訪問はかなり刺激
的で楽しい様子です。



普段は居室で過ごす事の
多い方も、小学生が来訪する
と笑顔でリビングに出てこ
られます。

「子供の相手は疲れるなあ
と笑顔で話され、「次はいつ
来るかなあ?」と楽しみにさ
れている様子。散歩に出る時
間が丁度下校時刻にあたる
と、子供達が手を振ってくれ
る事も楽しみが増えて
いるようです。またホームで
はハロウィンに子供達にお
菓子を配ったりお餅つきに

は子供達を招待して一緒に
過ごしたりと交流は順調で
す。

実は小学校との交流はまだ
2年目。それでも2学年分の
子供たちがなでしこの入居
者様を認識してくれている
のです。ホームの外で会った
ら「あ、なでしこの人だ!」
と、たぐさんの子供達に認識
して貰えるのはかなりすこ
いと思いませんか?今後も
継続してさらになでしこの
ことを知って貰えればと思
っています。

さらに地域に根ざしたホー
ムを目指してもっともっと
交流を続けて行きたいと思
います。



利用者様に安心・安全な看護・介護サービスの提供を目指して

教育委員会議長

看護部 部長代理 安城栄子

昨年四月から(株)アイシマ看護部で働いています。

横浜市立大学病院・横浜船員保険病院・青葉さわい病院で勤務していました。

縁あってこちらで勤務することになり、今年には教育委員会議長を務めることになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

今年のアシマの目標の一つに、各事業所の稼働率を上げることが挙がっています。

平成二八年度高齢社会白書では、平成二七年十月一日現在、

総人口一億二七一一人、

うち六五歳以上が三三九二万人で、高齢化率約二七%と書かれています。神奈川県は総人口

九九六万五千人、そのうち六五歳以上の高齢者は二一万五千人・高齢化率約二三%です。

日本全体では、二〇二五年には四人に一人が高齢者でそのうち認知症が五人に一人といわれる時代が予測されています。

そのような時代を眼前にして、アイシマの様な高齢者対応ができる施設がさらに増えることは明らかです。会社の新規立ち上げや増加、他業種から転換を図る業者の進出など、枚挙に暇がないことでしょう。

地域包括・在宅ケアもだいぶ浸透し、利用者様の選択肢が増え、どのようなサービスが提供できるか、どのようなニーズに応えられるか、というところに選択の基準が置かれることになると思います。

アイシマの職員は利用者様のそれらのニーズに答えるべく、知識・技術の向上、利用者様やご家族の心に沿ったケアへの努力を行い、様々な学習を通して自分自身を高めてほしいと思います。

「アイシマの職員さんは良く勉強して安心してできる。この施設でお世話になってよかった。」と思い、選んでいただけるようにしたいものです。

そのために、職員教育の充実、人材育成に力を入れたいと思います。

昨年は三月と六月に集合研修、十月に瀬谷公開堂でシンポジウム形式の公開研修会を行いました。今年も集合研修や各段階別の研修を計画しています。教育研修はアンケート等を参考にテーマを考えていますが、受講者数が限られます。受講した方はご自分の知識だけに留めず、職場に戻り伝達講習をして、参加できなかった職員も「勉強になりそうだから次は参加しよう。」と欲していたできるようにしてください。

また、ホーム長・所長などの管理者も、スタッフの成長をしっかり支援してください。もちろん、ご自身もしっかり勉強して、利用者様に良いケアが提供できるよう、ともに成長して今年の課題が達成できるようにいたします。

第2回 アンチエイジング座談会

「アンチエイジング座談会」は、奥村由巳氏を座長に迎え昨年より始まりました。

「健康寿命をのばし、いつまでも若々しく、元気なシニアライフを目指して」をキャッチコピーに、レストラン風の音で定期開催を目指すイベントです。



第1回は「アンチエイジング入門編」という事で始まり、

2回目の今回は「アンチエイジングの秘訣」として専門医である 特定医療法人社団 鵬友会 新中川病院 福田千文院長をお迎えし、抗老化の

為の具体的な話を聞きながら楽しく語り合いました。という趣旨での開催でした。

「高齢者を支える病院」の院長であり、参加の方々と同年代の先生からのお話は、実際に治療に携わる現場の興味深いお話に加え、がん治療や認知症についてなど、皆さんが聞きたかった内容が盛り込まれており大変興味深いものでした。

そんな若々しい先生からのお言葉をいくつかご紹介。

- ◆好きな事をして自由に生きる。(出来る範囲で堪能する。)
 - ◆クヨクヨしない。↓免疫力アップ。(クヨクヨする。↓認知症のリスクアップ) 等など。
- 情報が溢れている現代、いかに情報に躍らされず「今」を生きるかで今後のその人そのものが変わってくるのかもしれないですね。

編集後記

替ではインフルエンザが猛威をふるっていますが皆様は大丈夫ですか？私は元気いっぱい。〇〇は風邪ひかないを地で行ってます。(T)